

【講師プロフィール】

山 口 和 士 (やまぐち かずし)

1956年山形県生まれ。教師、詩人、文芸評論家。教育研究会「日本進路指導推進協議会」会長。関東学院大学（神奈川県横浜市金沢区 全11学部）特任教授。群馬県立高崎東高等学校前校長。

公立高等学校での教育実践をもとに、筑波大学、青山学院大学等で大学の教職員に講演し、大学改革を提言。東京都公立高等学校進路指導研究会で10年前に講演し、公立高校復活の火をつけた人物としても知られている。埼玉県の公立高等学校復活にも尽力し、巨大中枢校を覚醒させるために、近隣の伝統公立高校と新興私立高校の両方で講演、ノウハウを注入したことで、その両校は東大現役合格10名以上となり、中枢拠点校が追い詰められ、はじめて模擬試験を導入するまでになったことは記憶に新しい。

また、厳しい体制にあった拠点伝統公立高等学校で進路指導を担当、例年国公立現役大学合格120名程度であった状況を、就任後直ちに3学年生徒全員面談を実施し、一人ひとりに具体的な合格戦略を授け、たった1年で国公立現役合格者が200名になるなど、驚異的な実績を残したことで知られている。

管理職となった後も、日々校門に立って生徒に声かけし、挨拶を徹底させ、教頭面談、校長面談を勤務校の卒業生全員に実施。総合学科で国公立現役合格者を卒業生数の6人に1人から4人の1人にまで伸長させた実績は、全国の新学科、総合学科の希望となった。最後の勤務校では教職員の資質を全国レベルに高めるため、「進路多様躍進校会議」を企画。全国から第1回33校、第2回70校が参加し、北は青森県下北半島の田名部高校から南は鹿児島県の奄美大島の大島高校まで130名を越える教員が年齢に関わらず結集し、高い意識で議論し、ノウハウを出し合い、現実の課題に立ち向かう姿勢を共有し合った。結果として、国公立現役合格10名程度の中間校であった勤務校が、昨春24名、今春も24名と倍増する国公立合格者を輩出する学校となった。

北海道、東北、首都圏、中部・東海、北陸、近畿、中・四国、九州・沖縄と、全国の主要地区進路指導研究会での基調講演者として招聘され、活躍している。2008年まで2年間にわたり月刊『進路指導』（日本進路指導協会刊）に「高等学校進路指導 Q&A」を連載。全国の高等学校進路指導担当者に広くその名を知られており、年間200校を超える高校や全国の都道府県教育委員会から講演のオファーがある。受験校、中間校、定時制と幅広い校種で優れた実践を行い、教育の本質を追求、体現してきた人物としても著名である。

最近では、新テストの作問試案を作成し、「高大接続システム改革委員」に提出するなど、次代の高等学校、大学改革にも優れた提言を行い、現場の視点を明確に活かした時代を牽引する強い姿勢を示し、全国に注目されている。また、今年4月東京お茶の水で実施された「第4回高大接続 教育改革シンポジウム」に登壇し、高等学校を代表する立場から、文部科学省主任大学改革官、東京大学副学長とともに講演した。次世代のオピニオンリーダーとしても今後の活動を期待されている。

世界の教育事情にも精通し、日本の高等学校を広角な見地から分析・研究・実践し、新たな時代の進路指導の理論家・実践者としても注目を集めている。